

研究報告

都市近郊農業集落の持続的まちづくりにおける地域活動の展開に関する研究
～滋賀県甲賀市今郷集落の手作り地蔵プロジェクトを対象として～

吉井 隆 滋賀県立大学 環境科学研究科博士後期課程
 鶴飼 修 滋賀県立大学 全学共通教育推進機構 准教授

1. 背景と目的

農村集落には、長い歴史の中での多様な人間の働きかけを通じて形成された豊かな里地里山や特有の生きる知恵や技術、自然と共生した生活文化や景観が存在していた。こうした豊かな地域環境を維持してきたのは、伝統的なしきたりを重んじ、やや閉鎖的ともいえるコミュニティが維持されてきたからといえる。道路や水路の清掃から共有林、ため池の管理といった農業活動に係わること、冠婚葬祭、集会施設、集落の年間行事など生活に係わる住民の共同活動を通じて連帯感が育まれてきた。しかし、多くの農村集落では、少子高齢化や後継者不足などによる農業人口の減少が顕著に表面化し、自然環境や文化、景観の維持ができなくなり、さらに、農村内部と外部の両面から生じた混住化と呼ばれる現象が生じ、内発的につながったコミュニティの維持、存続の難しさが加速している(左村、2011)¹⁾。

このような地域の状況に危機感をもった市民グループが立ち上がり、行政との協働事業を通して始めたまちづくり活動事例が日本全国の自治体報告²⁾に見られる。地域が自らの地域活性化に目覚め、サークル的活動から、地域資源を活用し、地域の認知を得て、持続的なまちづくり活動へと展開していくプロセスの中で活動グループの意識や満足度を研究対象とすることの重要性は高まっている。

本稿では、都市近郊農業集落の市民グループが始めたまちづくり活動において、地域資源を活用した一連の活動「里山粘土による手作り地蔵プロジェクト」がメンバー自身の意識にどのように影響したのかを明らかにすることを目的とした。

地域におけるまちづくり活動は、一過性のものでなく、持続的・継続的な活動が必要とされる。地域資源への気づき、発見とそれらの活用によるまちづくり活動は、持続的なまちづくりを担保する手法と考えられる。そうした地域資源の発見・活用手法の実践的提示とその効果を明らかにすることで、他地域における応用が期待される。

2. 研究の方法

2.1 研究対象

滋賀県甲賀市今郷集落は、甲賀市中心地より約4kmの距離にあり、国道一号線、旧国道一号線、旧東海道などの主要幹線道路が集落内を走り、図-1のような江戸時代の東海道分間延絵図³⁾に描かれた辻や寺院などが今も残る長い歴史を有している。

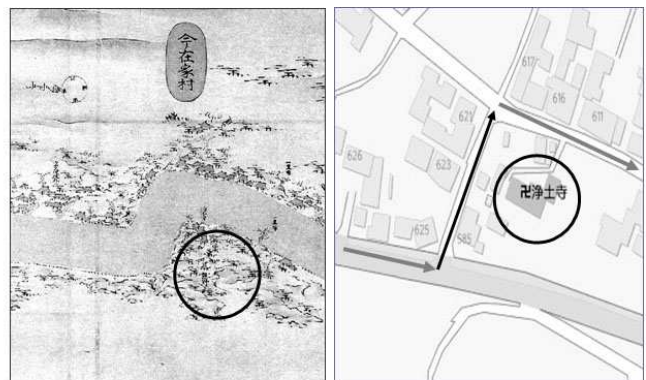


図-1 左:東海道分間延絵図³⁾

右:現在の地図(出展 Yahoo 地図)にみる今郷中心部

また、旧来から街道、国道を通した人の往来や物資輸送があり、東西約1.7kmの直線的な集落構造を持ち、戸数74戸、約300人が住居する都市近郊農業集落である。現在、区や自治会をはじめ、地域で活動する各種団体が連携協力し、行政も共に力を合わせながらまちづくり活動に取り組んでいる。

本研究では、甲賀市市民協働事業提案制度^{注)}の応募、選定をきっかけとして活動を始めた「今郷好日会」(市民グループ、会員数18名)によるまちづくり活動を対象とした。同グループは、表-1に示す旧東海道に関わる地域課題に気づき、今のうちに手を打たなければならないとの危機感から「歴史街道の整備による街づくり」をテーマとして、甲賀市との市民協働事業を平成23年度より始めている⁴⁾。

表-1 市民グループが考える地域課題

-
- ① 今郷の旧東海道周辺に残る史蹟は未整備で、案内看板も朽ち、地元住民にも分からなくなっている。
 - ② 郷土に残る歴史的財産を次世代に伝えるための調査研究や整備が行われていない。
 - ③ 最近のウォーキングブームで街道見学者も多く訪れるが、情報提供や環境整備ができていない。
 - ④ 土山宿、水口宿の街道整備はできているが、中間地域は行政としても進めていない
-

2.2 研究内容

調査では、今郷好日会を対象に、地域資源の発見・活用を通じたまちづくり活動の実施と、それらにおける参与観察、ヒアリングを行った。本まちづくり活動は、地域資源への気づき・発見、共有を目的とした「地域診断ワークショップ」と発見された地域資源を活用した「手づくり地蔵プロジェクト」で構成されている。

特にこの活動の特徴としては、「地蔵」を制作するという要素が挙げられる。大阪市監査委員(1983)⁵⁾によれば、「地蔵信仰は仏教から出発したものであるが、今日では宗教的色彩が著しく稀薄化し、地蔵は地域社会の中のお守り的な存在になっており、極めて習俗的行為に近いもの」とされており、また、滋賀文化財資料⁶⁾では、「民間信仰である地蔵信仰は、地域住民の生活の中に溶け込み、民俗化し、宗教性自体稀薄化し、地蔵盆や盆踊といった季節的な習俗行事に際し、その行事の一要素として地域住民に管理されているにすぎず、一方、このような地蔵に対し、通りすがりの人々が手をあわし、礼拝することもあるが、それは自らの地蔵信仰に基づくというよりは、伝統的に日本人によって礼拝されてきたものに対し、習慣的に手をあわしている」と指摘している。また、地蔵を用いることによる効果について、竹内ら(1999)⁷⁾は、京都における地蔵の配置に関する研究から、地蔵という聖祠が街路に配置されることによって、「町」という単位空間の中にさらに小さな単位空間を包含すること、これによって、「町」という共同体が抱く共通の願いの対象となっていたと論じ、森(2007)⁸⁾は、お地蔵さんワークショップで町内会にひとつの場を作り、人々の出会いと地蔵の再発見を促し、町内会としての共同体メンバーシップに関わる機会をつくり、地域外の人々や地蔵盆がない地域の人々にとっても、地蔵という存在が可愛らしく親しみやすい存在であることを明らかにし、さらに地域を超えて魅力を発信できる力を持つこと

を指摘している。

これら地蔵に関する先行研究の知見や考察から、地蔵は古来より地域や町の礼拝のシンボルではあるが特定の宗教的な存在ではなく習俗的なところのよりどころとしての存在対象であったといえる。現在の地域社会にあっても、その存在は、人と人、人と地域のかかわりを深める機能を有していると考えられ、そうした存在を地域資源の活用と連携させることにより、携わるメンバーの意識に対する効果が期待できる。

2.3 地域診断ワークショップ

今郷公民館で参加型ワークショップを開催し、市民グループ、甲賀市行政職員、岩上自治振興会、滋賀県立大学学生および関係者の参加者 25 名で、地元市民グループによる旧東海道、農地、里山を含む地域全体のまち歩きと解説を受けたあと、鶴飼(2012)⁹⁾の地域診断法による鳥の目、虫の目、科学の目の視点から地域資源の見学、観察を通じた評価を行った。評価項目として地学的・気象的特性、生態的特性、歴史、産業、生活の 6 要素を設定し、参加者による観察評価からそれぞれの要素における特徴や印象的であった事項を聞き取り内容抽出した。そして参加者全員による地域資源の総合評価を行った。ここで言う地域資源とはジンマーマン¹⁰⁾の資源概念を基にした「資源は関係するすべての要素の動的な相互作用から生成する」との秋山(2001)¹¹⁾の論説を反映したものである。

2.4 里山粘土による手作り地蔵プロジェクト

グループが行政と協働で行っている「今郷歴史街道の整備による街づくり」の活動との連携を念頭に、集落の辻などに存在する地蔵の価値に着目し、今郷集落の里山周辺から産出する古琵琶湖層由来の粘土や薪などの里山資源を使い、自ら掌サイズの手作り地蔵製作「手作り地蔵プロジェクト」を 2012 年 11 月から 12 月の約一月間に実施した。表-2 に手作り地蔵の作像、野焼き体験教室、旧東海道沿いお休み処内への展示、宮城県気仙沼との交流など手作り地蔵を中心とした活動プロセスを示す。この活動プロセスでメンバーが感じた地蔵作りの効用と使い方に関する気づきや意識をワークショップ形式で各人の意見の抽出、グループによるデータ整理、統合によって活動要因としての意識構造を明らかにした。また、メンバー各人へのヒアリング調査で、活動 1 から活動 5 に対する満足度を五段階基準による自由評価を実施した。

表-4 手作り地蔵に対する意識調査まとめ

人と人の繋がり の輪を広げる価値	目に見える価値	目に見えない価値	地域の価値
自分、家族、近所、 区民の人と人に対 する前向きな気持 ちや交流の広がり への期待。	作る楽しさ、催 し・行事、商品化、 展示による観賞な ど実体のある存在 への気づき。	ボケ防止、人を思 いやる心、仏の心、 身代わり、次世代 に繋げる思い。	旧東海道お休み処 の認知度や今郷の 自然・歴史・文化 など地域への誇り を高める。

今郷好日会 15名 / 2012.11.17 実施

また、里山の粘土層より粘土を採取調整し、里山のマキを燃料として使って、粘土作品を野焼きで焼成するプロセスは、非日常的で、今まで身近にあった地域資源が自分の力で地蔵に生まれ変わる瞬間との出会いや驚きを与え、次の活動展開への活力を引き出す動機を生み出していると考えられる。これは、

森(2010)が行ったお地蔵さんワークショップの結果における、地蔵尊の価値の再発見が人々の交流の場に発展したことと符合するものであった。

このように手作り地蔵の活動を通じて、ものづくりの楽しさ、学び、達成感、人との交流意識、他所地域との交流意識が醸成されたと考えられる。

3.3 手作り地蔵プロジェクト活動展開に対する満足度結果

活動展開とメンバー一人ひとりの満足度について図-3に示す。図-2の意識調査の中では活動に対するネガティブな回答は見られなかったが、メンバーの中には、活動内容の理解不足や地蔵への興味のなさなどから、活動前の満足度の低い人が見られた。しかし、体験教室での地蔵の手作りや野焼きによる焼成を経験することで、目に見える実体として自分の手による作品が出来たことで満足度は一気に高まった。さらに、作った作品を街道沿道のお休み処に展示し、地域の人々や街道歩きの方々からの反響を実感することで満足度はさらに高まった。また、里山周辺の地産粘土の調査過程で地元では忘れ去られていた9世紀の須恵器窯跡の再発見があり、自らの力で新たな地域文化資源を発掘した経験がメンバー間の活動モチベーションを高めた。そして、宮城県気仙沼の方々との交流では、個人では出来なかった交流を経験することができ、また、自分の作った地蔵のプレゼントに感謝の手紙をもらったことなど自己実現の実感をもち、満足度も非常に高いレベルに達した。

以上のように、地域資源を活用した手作り地蔵プロジェクトでは、地域資源の再認識、再発見やものづくりの喜び、地域内交流の推進にとどまらず、地蔵の持つ効用を活かした、他所との交流の広がりな

ど、個人では出来ない活動体験の広がりからいっそうの効用が得られることが確認された。

4. 結論

甲賀市今郷集落は、他の都市近郊農業集落コミュニティと共通した少子高齢化、混住化、後継者不足による農業人口減少や内発的に繋がったコミュニティの維持、存続の難しさなどの地域課題を有している。しかし、市民グループは、自らの地域活性化に目覚め、サークル的活動から、地域資源を活用した持続的なまちづくりとして、旧東海道沿道にある利点を活かし甲賀市市民協働事業提案制度による行政との協働を活用し「歴史街道の整備による街づくり」を始めた。一方、今郷集落は、野洲川河岸段丘の美しい景観や農地、里山などの恵まれた地域資源とともに、古代から主要街道沿いの農村集落として独自の発展を遂げ、多くの人の往来、史跡、伝承、平安期須恵器遺跡などの文化資源を有しており、この里山資源と文化資源を活用した手作り地蔵プロジェクトは、地蔵づくりの楽しさ、活動への興味、習俗的なところのよりどころとしての価値、地域内外の交流拡大など活動展開に対して目に見える価値、目に見えない価値を提供することで参加者の意識や満足感への効用が確認できた。甲賀市市民協働事業提案制度のような行政と市民の協働では、活動スタート時の目標に縛られた活動の運営管理が求められる傾向にあるが、手作り地蔵プロジェクトは、地域にとっても、市民グループにとっても受け入れやすい対象であり、さらに、作られた地蔵の街道お休み処への展示がグループ以外の地域住人にもまちづくり参加への興味を引き出し、市民活動に広がりを与える効用があるものと考えられる。

- 注釈 -

注) 甲賀市市民協働事業提案制度とは協働という考え方のもと、「市と一緒に事業を進めたい」、あるいは「既に行われている行政の事業をより良いものにしたい」。そんな思いをお持ちの皆さんからの提案を受け、対等な立場に立って共に提案内容の実現性を高め、事業の実施に向けて力を合わせていく制度です。
甲賀市ホームページより

- 参考文献 -

- 1) 左村公、岡澤宏ら、(2011)「混住化地域における農家と非農家との生活環境意識の総意」農村計画学会誌、Vol. 30, No. 2
- 2) 総務省、(2009)、平成21年度地方行政改革事例集
- 3) 東海道分間延絵図、(1984) 第20巻(土山・水口)解説編、東京美術

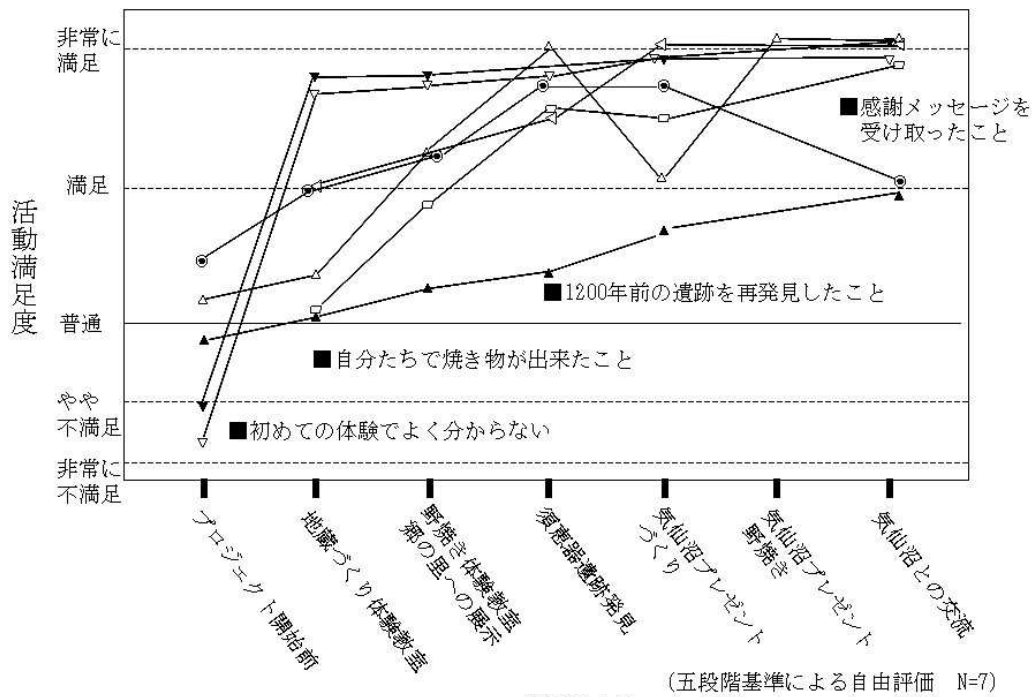


図-3 地蔵プロジェクト活動展開における満足度

- 参考文献 つづき -

- 4) 甲賀市ホームページ 平成 23 年度市民協働事業提案制度、<http://www.city.koka.lg.jp/6003.htm>
- 5) 大阪市監査委員 (1983)、地蔵設置に関連した大阪市所有土地貸借に対する訴状より抜粋
<http://www.courts.go.jp/hanrei/pdf/20080314110315.pdf>
- 6) 滋賀文化財だより、(2004) No288. 1. 30
- 7) 竹内泰、布野修司、(1999)「京都における地蔵の配置に関する考察」日本建築学会計画系論文集第 520 号、263-270
- 8) 森正美、(2005)、日本文化人類学会第 39 回研究大会 「京都府宇治市における実践の問題点と可能性」
- 9) 鶴飼修、(2012)、「地域診断法」新評論
- 10) ジンマーマン、E.W. (1985)、「資源サイエンス」(石光亨訳)、三嶺書房
- 11) 秋山道雄、(2001)、「開発理念の進化と環境管理」経済地理学年報、第 47 巻、第 4 号